

生活保護改悪とベーシック・インカムの可能性

反貧困ネットワークあいち
2013年度事業
第2回学習会

～ 21世紀の新しい社会保障の在り方を探る(1)～

「ベーシック・インカム」という言葉を聞いたことがありますか？ これは、「**すべての人が無条件で生活に必要な所得への権利をもつ**」という社会保障の考え方のことで、「無条件給付」「基本所得」とも呼ばれています。今の社会保障は、収入が途絶えると、基礎年金や雇用保険や生活保護などで生活を保障する、という仕組みです。しかし、消えた年金、雇用保険未加入者への対応、生活保護の「漏給」(必要な人が利用できていないこと)など、**問題が山積みです**。これを、生活に必要なお金をすべての人に支給することで置き換えるとうなるか。これがベーシック・インカムの発想法です。奇想天外に思われるかもしれませんが、すでに200年ほどの歴史をもつ“老舗”の議論です。

近年、日本では、**障がい者、母子世帯、生活困窮者**など、様々な人々に対して「**自立支援**」を求める動きが強まっています。これは、「ワークフェア」という、アメリカなどの動きを追っています。しかし、いくつかの国では、**ワークフェアに代わるものとしてベーシック・インカム**が議論されています。働いてお金を得ることは尊く、また大事なことです。しかし、このことにこだわりすぎると、働かないこと、働けないこと、さらには働くこと以外の様々な生活の豊かな営みが、軽んじられてしまわないだろうか。それは、もしかすると今の社会の“**貧困**”、“**息苦しさ**”、“**生きづらさ**”につながってはいないだろうか。ベーシック・インカム論は、こうした今の社会の在り方を根本から考えてみることの重要性と可能性を私たちに教えてくれます。

今回は、**東海圏初の、市民向け「ベーシック・インカム講座**」となります。関西と関東から、**ベーシック・インカム論の専門家**がここ愛知にやってきます。ベーシック・インカムって何？ どんな議論や実践があるの？ どんなメリットや論点があるの？ 今回は、これらの疑問が一気に氷解する、**またとない機会**です。

日時 2013年12月21日(土) 13:30～16:30

会場 愛知県産業労働センター「ウインクあいち」11階中会議室 B1104

(JR名古屋駅桜通口徒歩2分)

講演・講師

1. 生活保護のワークフェア改革の問題点
日本福祉大学 小林勇人氏
2. なぜ今ベーシック・インカムか
埼玉県立大学 堅田香緒里氏

参加費 無料(予約不要)

主催 ベーシック・インカムを考える会 2013

共催 反貧困ネットワークあいち

事務局：名古屋市中村区則武 1-10-6 名古屋法律事務所内

お問い合わせ

金城学院大学人間科学部 大山小夜
TEL 052-798-0180 FAX 052-798-4465
E-mail: saya@kinjo-u.ac.jp



生活保護改悪とベーシック・インカムの可能性

～ 21世紀の新しい社会保障の在り方を探る(1)～

日時 2013年12月21日(土) 13:30～16:30

会場 愛知県産業労働センター「ウインクあいち」11階中会議室 B1104
(JR名古屋駅桜通口徒歩2分)

プログラム

司会：村上慎司氏(医療科学研究所)

13:30～13:40 主催者・共催者挨拶(企画趣旨の説明)

13:40～14:30 講演1.生活保護のワークフェア改革の問題点

小林勇人氏(日本福祉大学)

【紹介】日本の生活保護の制度は、アメリカの「ワークフェア」を見本にしています。では、「本場」のアメリカで生活保護の実態はどのようになっているのでしょうか。アメリカのワークフェアに関する気鋭の研究者が解説してください。実は、いくつかの国では、「ワークフェア」に代わるものとして「ベーシック・インカム」というものが議論されています。その背景や経緯を追うことで、今の日本の制度の課題とその解決策のひとつの方向性が浮き彫りになってきます。

14:40～15:30 講演2.なぜ今ベーシック・インカムか

堅田香緒里氏(埼玉県立大学)

【紹介】日本各地で「ベーシック・インカム」の講演をされている方です。今回、愛知で初めて市民向け講座をしてください。すでに200年の歴史をもつベーシック・インカム論。世界ではどのような議論や実践があるのでしょうか。また、そもそもベーシック・インカムって何？今これを扱うことの意義とは？日本での動きは？これらの疑問が一気に氷解することでしょう。

15:30～15:40 休憩(質問用紙の回収)

15:40～16:25 質疑応答・意見交流

16:25～16:30 閉会挨拶

講師 小林勇人氏 より メッセージ

安倍政権下の経済政策や東京オリンピックの誘致決定などによって、景気的好転が期待されるなかで、原発事故・放射能汚染問題を含め様々な社会問題は、あたかも忘却・希釈化されているかのようだ。しかし、依然として、低所得・失業・貧困問題は深刻であり、そこに3.11以後の問題が折り重なっているのが、現実である。

本来ならば、これらの問題に対して、生活保護を活用することによって、対応していくことは可能なはずである。しかし、生活保護制度は、受給者数が増加するなかで、昨今のバッシングや保護基準の引き下げに加えて、抜本的な改悪が検討されるなど、利用し辛い状況になっている。

このような現状に対して、無条件の所得保障というベーシック・インカムを切り口にして、生活保護の問題点を改めて問い直し、どのような方向へ改革していくことが望ましいのか展望したい。